令和7年3月13日

足立区立東栗原小学校
校長 伊地知 広竹 様

足立区立東栗原小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 北村 信也

令和6年度 学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

- 教職員の皆さんの取り組み、日々の授業実践の熱心さに感謝している。
- 運動会や展覧会での発表の様子から、子ども一人一人の頑張る姿が見られた。
- 昨年度に引き続き、一ツ家三丁目町会夏祭りでのソーラン節などで、ひがくりの子どもたちが地域で活躍する姿が見られた。
- 道徳授業地区公開講座では、教員のみなさんとの意見交換会でたくさん話しができたことがとても有意義だった。

<学力向上>

- 国語と算数2科目の正答率・通過率ともに65%未満。基礎的な内容の定着、課題解決をわかりやすく考えさせる授業の工夫・改善で、もっとよくなると思う。
- 学力向上アクションプランから、全学年でA Iドリルを効果的に使っている。区内有数の活用レベルと聞いている。ICTに長けた教職員が多いことも、授業観察から分かった。

<学習規律や生活規律>

- 家庭学習が充実している子とそうではない子で乖離があると聞いている。漢字検定は2回実施しているが、その結果からも子どもの普段の学習習慣が分かる。
- YYクラブでは、友達との関わり方に課題のある子が目立ってきている。学級活動の充実や先生方の学級経営の力で改善していくとよい、と考える。

<学校・PTA・地域の連携>

- ひがくりっこ祭りや図書ボランティアなど、学校と保護者・地域との活動の場があり、よい連携が取れていると考えている。
- 学校、PTA、地域との連携は、時代の流れに合わせて変化させていくことも大事である。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- 今年度は教職員の年度内の異動が多かった。教職員のみなさんが指導力を高めていくことや心理的安定性の確保に努められるよう、行事や授業時間等の見直しも必要だと考える。

3 その他